

105-67

問題文

クラミジアに関する記述のうち、正しいのはどれか。1つ選べ。

1. 淋病の起因菌である。
2. 細胞内寄生菌である。
3. 細胞壁にペプチドグリカンをもつ。
4. 宿主はダニである。
5. 感染症にはβ-ラクタム系抗菌薬が有効である。

解答

2

解説

選択肢 1 ですが

淋病の起因菌は淋菌です。クラミジアではありません。よって、選択肢 1 は誤りです。

選択肢 2 は妥当な記述です。

クラミジアは「偏性細胞内寄生細菌」の一種です。動物細胞内でしか増殖できない、ウイルスのような細菌の一種です。

選択肢 3 ですが

クラミジアの細胞壁には、ペプチドグリカン層がありません。よって、選択肢 3 は誤りです。

選択肢 4 ですが

ダニが宿主であるのはリケッチアなどです。よって、選択肢 4 は誤りです。

選択肢 5 ですが

ペプチドグリカン層がないため、β-ラクタム系は無効です。マクロライド系等が用いられます。よって、選択肢 5 は誤りです。

以上より、正解は 2 です。